

8-6-3 CPD委員会

1. 主な活動の記録

(1) CPD 委員会の開催

委員会開催回数：10回

(2) 主な内容

令和4年度の委員会活動は主に、①協会会員のCPD取得支援、②CPD監査の実施と監査結果の分析、③CPD解説書の改定・CPD形態の追加、④関連学協会との連携によるCPD活用の4点を中心に委員会活動を行った。

a) 協会会員のCPD取得支援

協会会員のCPD取得を支援するため、Web講習記録配信を活用することにより、多くの会員に利用して頂くことを目的として活動した。

新型コロナウイルス感染症の影響により集合型によるCPD取得が困難な事態が続いているが、協会HPでセミナー動画をより多く配信することにより、CPD取得機会に貢献した。

Web講習記録配信の開始以降、視聴者数は増加しておりCPD取得機会の創出に寄与している。

令和元年：31,046、令和2年：36,354、令和3年：54,968、令和4年：62,737（視聴者数）

動画配信は、会員企業のニーズ、テーマの妥当性など踏まえて、34時間のCPD対象となる下記12セミナー（31講義）を協会HP上で視聴できるようにした。

職業倫理・コンプライアンス委員会、鉄道専門委員会、情報セキュリティ専門委員会、業務研究発表会WG、ICT普及専門委員会、ITS専門委員会、砂防・急傾斜専門委員会、海岸・海洋専門委員会、マネジメントシステム委員会、PFI専門委員会、道路専門委員会、環境配慮専門委員会

また、更なる協会会員の能力向上を支援することを目的に、当委員会主催によるセミナー配信に向けた検討に着手した。

b) CPD監査の実施と監査結果の分析

令和4年度の監査は、令和3年度のCPD記録登録者200名（記録数3,928件）を対象に実

施した。教育形態別の記録状況は社会状況の影響から自己学習が最多33.1%を占め、続いて企業研修が増加傾向で22.9%、講習会等への参加は19.7%とコロナ禍以前の半分程度となった。

監査結果は削除相当が0.3%、修正相当が0.6%と記録の不備は全体比率から僅かに残るが、システム等の改善に伴って低水準にあり、減少傾向にある。したがって、CPDシステムは適切に運用されていると判断できる。

c) CPD解説書の改訂・CPD形態の追加

教育分野・分類の多様化やWeb講習への対応など監査活動を通じた利用者のCPD登録の適正化を図るためCPD解説書（2023年4月第9版）を改正した。また、CPD登録対象となる技術資格を検討し、対象資格を追加した。

d) 関連各協会との連携によるCPD活用

技術士（CPD認定）制度の開始、技術士に求められる資質能力（コンピテンシー）への「継続研さん」の追加などに対応すべく、関連学協会と連携を図り、協会会員のCPD活用を支援していく。

(3) CPD記録申請等

a) CPD記録申請者数

令和4年度：171,139人

令和3年度：154,148人

b) CPD記録申請件数

令和4年度：543,800件

令和3年度：509,500件

c) CPD証明書発行件数

令和4年度：8,389件

令和3年度：7,790件

2. 次年度の活動について

次年度の委員会活動は主に、①CPDシステムの協会会員への周知、②CPD記録の監査、③CPD取得の支援、協会認定プログラムの充実、④関連学協会との連携によるCPDの活用などを行う。

（CPD委員会委員長 片山 善郎）